

子育て支援「高評価」の自治体は

子育てするならば、どの自治体がいいのか。法令で提出が義務付けられている行動計画の進捗



自治体の創意工夫が続く (イメージ写真)

状況に基づき、各自治体を評価・検証するNPO「エガリテ大手前」の「次世代育成環境ランキング(13年度)」をご覧いただきたい。同ランキングは1人当たりの施設数や定員数などで点数化するため、人口規模が大きい大都市ほど不利になりがち。このため、政令市(19市)・中核市(41市)・東京23区にわけて順位付けしている。

子育て支援充実の自治体

- 政令市の1位……北九州市
- 中核市の1位……函館市(北海道)
- 23区の1位……千代田区
- 改善度1位……倉敷市(岡山県)
- 注目度1位……横浜市

※NPOエガリテ大手前の調査(13年度)による

政令市の1位は北九州市。前市長時代から「子育て日本一」を掲げる熱の入れよう。今回は乳幼児保育と児童養護で1位、小児医療で2位。同市は人口比での出生率も2位と子どもが多い中での好成績だ。中核市では函館市がトップ。ただし、同市の出生率は40位。人口比で見れば、子どもの数が少ないことが数字を押し上げた面もある。千代田区も出生率は最下位。ただ、居住者にとっ

ては保育園入園の際などにライバルが少ないため、相対的に環境に恵まれているという結果になっている。同NPO代表の古久保俊嗣さんは「男女共同参画社会の形成が課題とされながら、いまだに子育て環境は課題が山積。出生率が高いうえ、諸条件のランキングが高い自治体は子育て支援に熱心といえ、今後も期待できそう。横浜市や江戸川区などは近年の改善度が高く、注目です」と話す。

スマホ向けアプリで14年も人気が高かったのは、ソーシャルネットワーク(SNS)系とゲームだ。特に「LINE」は安定してユーザーが増え続け、手軽に遊べるLINEゲームも多数が上位に入っている。

課金の利用が多いためだ。他に目立ったのは、「メルカリ」のようなユーザー間で手軽にモノの売り買いができるフリマ(フリーマーケット)アプリ。若い女性の利用が多い。また「スマートニュース」など、好みのニュースを自動収集してまとめ読みできるキュレーションアプリも人気だ。意外な人気は教育関連、特に英語学習アプリだ。「本

気で英会話!ペラペラ英語」のように、会話の中でネイティブの発音を聞くことができ、自分の発音もチェックできるなど、音声認識が使えるスマホならではの学習方法が受けている。実務系では、マイクロソフトが11月に無料公開した「Microsoft Word/Excel/PowerPoint」。公開1週間で世界1200万ダウンロードを達成したので、公開

世相を映すアプリ人気

テクニカルライターの小野均

携帯アプリダウンロード数

- 1 LINE
- 2 パズル&ドラゴンズ
- 3 Facebook(Messenger)
- 4 モンスターストライク
- 5 スマートニュース

※2014年 App Annie、アップル、グーグルの各データから筆者作成

が早ければ年間ランキングでも上位に入っただろう。さて15年の予想だが、上位は変わらずSNS系とゲームが占めそう。注目は、春ごろといわれる腕時計型端末「Apple Watch」の発売。Android陣営では既に機種種があるが、これで市場は大きく動きそう。まず考えられるのは、健康管理アプリの充実。端末から取得したデータをスマホアプリで管理するスタイルが増える。また、スマホと連携した新たなコミュニケーションサービスの登場も予想される。このほか、スマホから家電をコントロールするアプリにも注目しておきたい。